

東海市立船島小学校 住 所 東海市富木島町船島1の1 電話番号 052-604-3536 児童/生徒 317名 校長名 上元 謙二 ｸﾗｽ14学級(内 特支2)		○教育目標 ○地域の特色	・心や体をきたえ、たくましく生きる子どもの育成 ・古くからある姫島地区と、比較的新しい伏見地区に中央町の一部、上瀬木、東広、藤島などの団地がある。コミュニティ活動もさかんで、地域の結びつきは比較的強い。			
目標とする姿等	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】平成30年1月18日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知 進んで学ぶ 友と共に学ぶ 問題解決に努力する	「分かる授業」「楽しい授業」を目指すため、言語活動を充実させることを通して、主体的・対話的な学びを図る。	学校評価アンケート 児童 16「自分の考えや意見を発表している」、18「授業の内容が分かる」、19「授業は楽しい」、20「先生は熱心に教えてくれる」	(評価A)「よくあてはまる」の回答は、「授業は楽しい」は7.4%、「授業の内容が分かる」は3.4%、「先生は熱心に」は5.9%、「自分の考えや意見を発表」は2.3%どれも増加している。毎時間の課題を明確にすることと学習の振り返り、言語活動を行っている成果と考えられる。	・今後も「わかる授業」「楽しい授業」「対話的な授業」を、自信をもって行えるように、現職教育において授業技術の力量を継続して高めていく。	・児童は、「学校が楽しい・好き・授業が楽しい」などでは、前年より向上してよい。 ・保護者の「学校は、分かりやすい授業をしている」の肯定的な回答が、減少しているところが気になる。若い教員が多くなったことが原因かもしれない。	・教務主任、現職教育主任を中心に、現職教育の授業研究活動を、取り組む課題を明確にしてさらに充実させていく。 ・主体的・対話的で深い学びを実現させるために教科横断も含めた単元構想を工夫する。
	学習規律を定着させ、集中して学習に取り組ませ、基礎基本の定着、学力向上につなげる。	学校評価アンケート 児童 11「授業をしんけんに受けている」、12「よいしせいで学習」、13「名前をよばれたら返事」、14「話す人のほうを見て聞いている」	(評価B)「授業をしんけんに受けている」以外の項目では、肯定的な回答が減少している。学習規律の徹底を重点目標から外したことが原因と考えられる。	・よりよい学びは、よりよい学習規律から生まれるものであることを意識し、学習規律の徹底を心がけていく。	・やはり、よい姿勢で授業を受けることは大切である。もう一度、学習規律の見直しを図っていただきたい。	・教務主任、現職教育主任を中心に、学習規律の大切さを児童に伝え、よりよい学習環境をつくりあげていく。 ・「ときときチューズデー」を継続させる。
徳 思いやり あいさつ	異学年交流を進め、相手の立場を思いやり、お互いの言動を尊重しあえる心を育てる。	学校行事や、ふれあいグループでの活動の様子、子どもたちの反省をとらえ、心の育ちを確かめる。	(評価A)七夕集会や運動会、ふれあいグループの活動など、よい表情で互いに思いやる姿が本年も多く見られた。高学年のどの児童にも低学年の児童の気持ちを大切にしている行動が見られた。	・ふれあいグループの活動の中で、6年生のリーダー性から学んでいるところが大きい。今後も継続して行い、学年を超えた思いやりの心を育てていく。	・ふれあいグループの活動は、下級生をいたわり、上級生を敬うことを学ぶのに効果がある。今後も継続してほしい。	・ふれあいグループの活動を継続、充実させる。 ・高学年のリーダー指導を継続、充実させる。
	道徳教育など様々な機会を捉え、心のつながりを大切にして、温かい人間関係の確立をはかる。	学校評価アンケート 児童 06「いじめは見られない」、07「そうじをしっかりと」、08「あいさつができる」	(評価A)すべての項目において、肯定的な回答が増加している。道徳の時間において、よりよい価値を考えさせる実践が行われている成果と考えられる。	・道徳の時間を中心とした道徳教育をさらに充実させる。「いじめ」については、今後も早期発見・早期解決に努めていく。	・子どもたちは、地域の中でもあいさつできるようになってきた。子どもたちから先にあいさつをもらうことが多くなった。 ・いじめが不登校につながらないように、しっかりと見守ってほしい。	・道徳教育推進教師を中心に道徳の授業技術の向上に努め、評価方法を検討する。 ・生徒指導主任を中心に児童の情報を職員間で共有し、いじめ等の未然防止・早期発見・早期解決に努める。
体 生活習慣の確立 進んで体力づくり	「早寝・早起き・朝ごはん」「歯磨き」「排便」の習慣化に努め、健康な生活が送れるようにする。	学期ごとに「せいかつ調べ」を行い、生活習慣が確立されているかどうかを分析する。	(評価B)昨年度からの課題であった「排便」は24%、「就寝時間」は40%の児童しか習慣化されておらず、改善されていない。他の項目は、習慣が確立されていてよい。	・生活習慣は、家庭状況が大きく影響する。特に「就寝時間」については大きな課題である。家庭への働きかけを強化していかなければならない。	・船島地区の子どもたちは、体を動かすことが得意な子が多い。メディアを使用する時間を、なわとびなどを動かすことの時間に代えてみてはどうだろうか。	・養護教諭を中心に、保健日よりなどを活用した保護者への情報提供を強化する。 ・「せいかつ調べ」を継続して行い、児童の意識化を強化する。
	バランスよく栄養を取る食習慣の定着を図る。	給食において、毎月の残菜量から評価する。	(評価A)給食委員会からの呼びかけなどにより毎月の残菜量は、市内でも少ない方に入っていた。	・食べる量の個人差があるので、無理なく食べられるように工夫する必要がある。	・就寝時間が遅いことが、給食を食べる量に影響を及ぼしているかもしれない。やはり、早く寝ることが大切である。	・給食主任が中心となり、給食の残菜をできる限り減らす工夫を継続する。
	運動量の確保に努め、健康で力強い体づくりにつなげる。	縄跳びカードやジョギングカードの内容から、運動量の確保や意欲について分析する。	(評価A)期間を設定して縄跳びやジョギングを行い、多くの児童が自分の目標に向けて意欲的に行っていた。今年もジョギングを休む児童が少なかった。	・縄跳びもジョギングも児童が目標意識をしっかりとって取り組めるよう今後も工夫していく。	・体を動かすよい機会をつくっている。意欲がわくようにジョギングのコースを変えてやってみることもよいのではないかと。	・体育主任が中心となり、体力づくり活動に対する児童の意識が高まるよう、児童のがんばりが目に見える方法を工夫していく。
地域連携 誇ってもらえる学校	学校支援ボランティアを軸に地域連携を深める。また、フナビオ会の活動を維持し、地域に根ざした学校づくりを進める。そのために効果的な情報発信に努める。	学校評価アンケート(地域) 学校支援ボランティアの活動状況、年間6回のフナビオ会への参加人数から評価する。	(評価A)「よい学校だと思う」のアンケートでは、否定的な回答が0%となった。学校支援ボランティアの活動も昨年度と変わらないご協力をいただいている。フナビオでの活動も「楽しい」「他の学校に自慢できる」と肯定的に回答した児童は増加している。	・児童の自慢であるフナビオでの活動が維持できるよう、フナビオ会・新川会と活動の方法等を検討していく必要がある。	・船島小学校は、いい学校だという評判が地域でも高い。 ・ピオトープは、学校と地域とを結びつける大切なものである。ピオトープが10年以上維持されていることがすばらしい。今後も維持できるような取組を考えていく必要がある。	・教頭・校務主任が情報発信を効果的に行い、地域との連携がさらに深まるようにする。 ・ピオトープでの活動については、フナビオ会・新川会と相談しながら活動が維持できる方法を探る。